

「芝浦アーバンデザイン・スクール」プロジェクト

代表者	前田英寿【教授】(デザイン工学部デザイン工学科)
構成員	桑田仁、谷口大造、篠崎道彦、横山太郎、藤原紀沙(デザイン工学部デザイン工学科)

プロジェクトの概要

芝浦アーバンデザイン・スクールは市民と行政(公)、企業・NPO(民)、大学(学)などが連携して都市の魅力を再発見・再検討するプロジェクトである。大学はその中心的役割を果たしながら実践的な教育研究力を高めていく。開かれた場になるようにまちづくりの国際用語“Urban design”を用いる。2013年度から東京都港区と連携して芝浦キャンパスの地元である芝浦・海岸地区で始動した。3年目の2015年度は設計演習の課題変更、国際ワークショップへの大学院生参加、研究成果の国内外発表、公開講座における区民講座との共催など、過去2年間の実績を学内外に展開しながら国際交流と地域連携が融合する取り組みに注力した。4年目の2016年度はこれらを継続するとともに、区画整理が進むさいたま市浦和美園地区を連携エリアに加えて過去3年間の経験で得た知見をまちづくりの現場で実用した。

COC活動の成果

■教育/デザイン工学科プロジェクト演習8「水辺の建築再生」

アーバンデザイン・スクールは学生がまちづくりに必要な3つの力を修得することを教育の目標とする。①社会の中で価値を持続する建築物と都市空間を見抜く発見評価力。②社会の中で価値を持続する建築物と都市空間を考案し創造する企画設計力。③様々な主体と協力して力を発揮する対話協働力。デザイン工学科3年後期「プロジェクト演習8」(卒業研究着手条件科目43名履修)で都内不動産企業から芝浦キャンパス近く運河沿いのビルを紹介してもらい、リノベーションを課題に用途変更と増改築の企画設計を演習した。企業の協力により見学会や特別講義を行うとともに、講評会に企業関係者を招き、作品を港区施設に出展する(社会貢献欄参照)。



プロジェクト演習8「水辺の建築再生」講評会

■研究/浦和美園デザインスタジオとグローバルPBL

アーバンデザイン・スクールは地域の課題を見える化することを研究の目標とする。①地域の現状を模型・図面・写真によって表現する。②地域が持つ可能性を建築物と都市空間のデザインを通して検証する。③国内外・地域間の比較を通して対象地域の課題を相対化する。都市デザイン研究室(前田英寿教授)が埼玉スタジアムのあるさいたま市浦和美園のまちづくりでマスタープランを提案し(都市デザインスタジオ)、ワークショップに参加した。11月東京都港区及び近傍水辺地域を題材にマレーシア工科大学ランドスケープアーキテクチャー学科を受け入れて大学院建設工学専攻修士課程とグローバルPBL(国際建築・空間デザインワークショップ)を行った。



浦和美園デザインスタジオ最終発表会

■社会貢献/芝浦港南百景講座とCOC全国シンポジウムなど

アーバンデザイン・スクールは学内外がまちづくりを学び合うことを社会貢献の目標とする。①市民・行政・企業・学生が同じ場で議論する。②大学の成果を開示して社会の反応を教育研究にフィードバックする。③まちづくりの手法や動向を大学が媒介して地域と共有する。港区芝浦港南地区総合支所主催公開講座「知生(ちい)き人養成プロジェクト」芝浦港南百景に桑田仁・前田英寿両教授が出講し、まちあるき編で芝浦港南地区を撮影して講評し合い(6月4・25日)、港湾運河編で乗船して芝浦港南地区を見直した(10月15日)。芝浦運河まつりに芝浦港南地区の都市形成史図と旧協働会館の模型を出展した(9月25日)。富山県立大学主催COC/COC+全国シンポジウムで修士1年2名が発表とポスターセッションを行った。プロジェクト演習8の作品を港区施設「みなとパーク芝浦」に展示した(3月11～20日)。



COC/COC+全国シンポジウム(富山)